

いま、
幕末が蘇る



「野村望東尼・渡辺昇賛竹梅図」・「高杉晋作写真」部分（ともに当館蔵）

常設企画展

詩歌で蘇る幕末

令和7年12月16日（火）→令和8年3月15日（日）

下関市立東行記念館

【住 所】山口県下関市大字吉田1184番地

【電話番号】083-284-0212

【開館時間】9:30～17:00（最終入館16:30）

【休 館 日】毎週月曜日（1月12日・2月23日は開館）・祝日の翌平日
年末年始（12月28日～1月4日）

【観 覧 料】一般300円（240円）・大学生等200円（160円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

※下関市内及び北九州市内に居住する65歳以上の方は観覧料150円

※18歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒、
障害者手帳等をお持ちの方は無料

※年齢、居住地等で割引を受ける場合は、公的証明書が必要

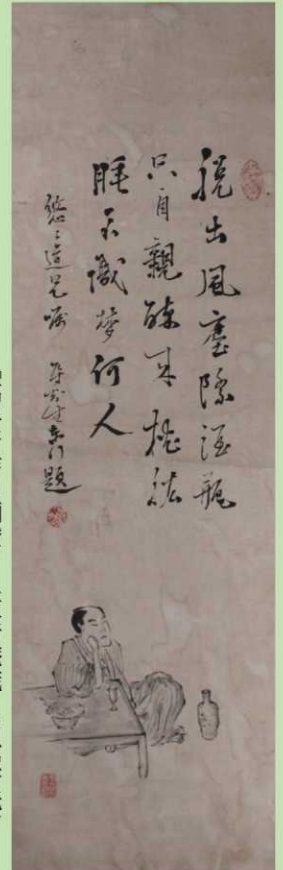
詩歌で蘇る幕末

激動の幕末を駆け抜けた高杉晋作。奇兵隊を結成し、下関戦争の止戦講和交渉などで活躍した晋作は、幕長戦争では長州藩軍を指揮して勝利に貢献しましたが、病に倒れてこの世を去ります。晋作の生涯は27年余りという短いものでありましたが、彼はそのなかで数多くの詩歌を遺しました。

晋作の遺した詩歌のなかには、自らの体験や、師・同志など多くの人たちとの交流をとおして生み出されたものがあります。さらに、刻々と変化する政治情勢のなかに身を投じた晋作は、自らを取り巻く状況に対する感情を読み込んだ詩歌も多く遺しました。また、晋作と共に幕末期を生きた人たちの詩歌にも、それぞれが抱いた感情や政治に対する思いが込められていたものがあります。

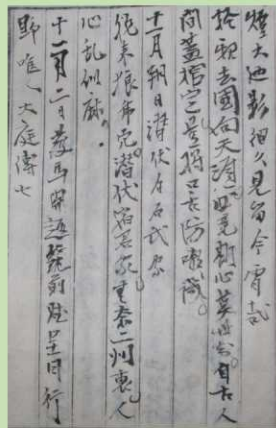
本展示では高杉晋作をはじめ、幕末を生きた人たちの詩歌を紹介することで激動の時代を辿ります。

晋作が自ら筆を執った画と賛



「高杉晋作自画賛」(東行庵蔵・当館寄託)

晋作が九州へ向かう前に詠んだ詩歌



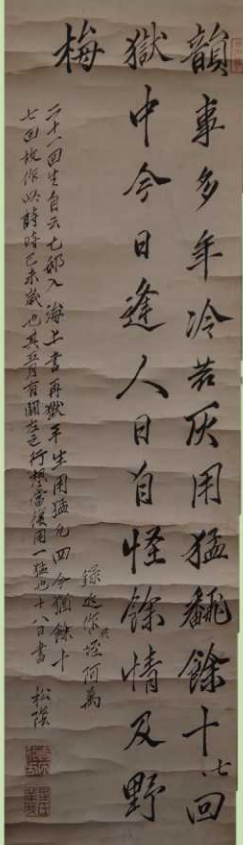
「甲子残稿」部分(当館蔵)

晋作が使用したとされるグラス



「脚付ガラス杯」(東行庵蔵・当館寄託)

松陰が獄中で詠んだ漢詩



「吉田松陰詩書」(東行庵蔵・当館寄託)

おすすめ資料

高杉晋作が福田侯平にプレゼントしたとされる「高杉晋作自画賛」です。

画のなかのグラスと思われる

「脚付ガラス杯」も

展示しています。

合わせてご覧ください。



学芸員:高下 久利

交通のご案内

公共交通機関でお越しの方

JR小月駅から美祿駅・湯谷・吉田方面行のバスに乗車(約15分)

JR下関駅から美祿駅・湯谷・吉田方面行のバスに乗車(約50分)

バス停

「東行庵入口」で下車(徒歩10分)

「東行庵前」で下車(徒歩5分)

お車でのお越しの方

小月ICより5~10分

美祿西ICより10~15分

